

不祥事は時代によって変化する

ある行為が不祥事と捉えられるかどうかは、時代により、また社会により変化します。「昔からしている」という感覚で漫然と仕事をしていると、ある時それが許されない行為として社会から非難を受けてしまうかもしれません。



自分が高校生のときに教わった先生の冗談にはいつも大笑いしていたなあ。でも今思えば、ちょっと不適切だったかも…。

どんな冗談だったの？



今で言うLGBTQの人を笑いのネタにしていたんだ。でも当時はバラエティ番組でも似たような笑いが多かったと思う。



常識や社会通念は変わるってことだね。気をつけなきゃ。



(解説)

人々の価値観や倫理観は、社会の変化に応じて変わるものです。

例えば、体罰は、この10年間で世間の受け止めが大きく変わったものの一つではないでしょうか。体罰そのものは明治のころから許されないものとされてきましたが、戦後になっても「しつけ」や「愛の鞭」として容認されてきました。しかし、平成24年度に大阪市立高校で起きた部活動における体罰事件以降、体罰に対する世間の目は大きく変化しました。

性の多様性に関する人権意識の高まりも、近年の変化の一つとして挙げられます。そのような変化を認識せずに、授業を盛り上げようと、LGBTQに関する差別的な冗談を言っていないですか。

将来の予測が困難な時代と言われています。技術の進歩は著しく、今や、多くの人がスマートフォンを持ち歩き、SNSを利用する時代です。

このような時代では、数年前には許されていたことが、気が付くと不適切な行為だと認識されている可能性もあります。「不祥事防止研修は内容が変わらないのだから、毎年受ける必要はない」と思っていると、思わぬところで失敗するかもしれません。

誇りを胸に

考えてみよう

- 近年、世間の見る目が厳しくなったと感じることは何ですか
- アウティングの意味を知っていますか、また、アウティングの問題点は何ですか
- 児童生徒との連絡方法について、どのようなルールがありますか

◆ 性の多様性について

性のあり方（セクシュアリティ）は、①こころの性（性自認）、②からだの性、③好きになる性（性的指向）、④表現する性の4つの性の組合せで考えることができます。

性のあり方は多様であることから、LGBTQなどの一部の人の性のあり方だけをとらえるものではなく、全ての人に関わるものとしてとらえることが大切です。

このような考え方を「SOGI（ソジ）」といいます。SOGIとは、全ての人を持つ要素である「性的指向（Sexual Orientation）」と「性自認（Gender Identity）」の頭文字をとった言葉です。

*性表現を意味する Gender Expression の「E」を加えて「SOGIE（ソジー）」ということもあります。

◆ SNSの利用について

個人情報の流出や児童生徒とのわいせつ行為など、不祥事に至る経緯として、SNSの不適切な利用が発端となることがあります。便利なSNSツールだからこそ注意が必要です。

① SNSで職務の重要情報のやりとりをしていませんか？

個人アカウントを用いて業務連絡をする場合、児童生徒の個人情報等の重要情報を扱うことは禁止されています。

② X（旧Twitter）などで職務に関する出来事を投稿していませんか？

児童生徒の氏名や写真を載せていなくても、アカウント名や投稿内容などから誰の投稿かわかることもあります。

③ 個人のスマートフォンに児童生徒の写真を保存していませんか？

運動会や文化祭など児童生徒の様子は、学校の機材で撮影しましょう。

④ SNSで児童生徒と私的なやりとりをしていませんか？

児童生徒から「相談に乗ってほしい」と言われ、安易にSNSの連絡先を交換していませんか。

「教職員の不祥事防止について（通知）」平成26年12月22日付け教県第1004号 ※一部抜粋

1 職員事故に至る経緯として、電話、電子メールや無料通信アプリケーション等の利用をきっかけとするものが増加傾向にあることから、改めて次の事項に留意すること。

- (1) 電話、電子メールや無料通信アプリケーション等による児童生徒との私的な連絡は、絶対に行わないこと。
- (2) 児童生徒へ連絡する必要があるときは、原則として学校の電話を使用すること。
- (3) 職務遂行上の必要がある場合を除き、児童生徒の携帯電話番号やメールアドレスを取得しないこと。
- (4) やむを得ず、児童生徒の携帯電話番号やメールアドレスを取得する場合には、事前に管理職の許可を得ること。

コラム

技術の進歩と不祥事

技術の進歩は私たちに便利な生活をもたらしますが、不祥事との関連にも注意が必要です。

SNSは連絡手段として便利である一方、児童生徒との適切な距離の取り方が難しい弊害があり、「魔が差した」時に容易に道を踏み誤らせる一面もあります。また、スマートフォンに児童生徒や保護者の携帯番号を登録して持ち歩くのは、業務上の必要性で取得した個人情報の、職場からの持ち出しに当たります。

高性能カメラの小型化は、「盗撮」という不適切な行為を助長しています。“誰でも簡単に入手可能”であり、“バレないだろう”という安易な考えが、道を踏み誤らせている現状があります。

また、技術の進歩は、これまで想像しなかったような不祥事に発展することもあります。

個人売買用アプリの流行は、無許可の副業といった服務規律違反や違法物の販売などの犯罪行為の増加につながる可能性もあります。

問題が起きても、子どもに不利益が生じて「便利さを優先する」ことの代償は、誰かの人生を左右する大きなものになりかねません。